

2022年度 自己評価チェックシートのまとめ

*◎は良くできていた ○は概ねできていた △は努力を要する

*本年度は初任者1名採用。1名は育児休業のため、全体数は変わらず8名。

*黒塗りは、昨年比上位解答項目(◎)より20%上昇のもの。

□で囲いは上記同様で、20%下降したもの。

単位 人

評価分類		内容	◎	○	△	
I 保育の 計画性	1	○園の教育理念や教育目標を理解する	2	5	1	
		○園の教育理念に基づいて教育目標について園長や保育者と話し合う	3	3	2	
	2	幼稚園教育要領の理解	○幼稚園教育要領を読み、園長や保育者と話し合っ理解に努める	1	2	5
	3	○園の教育課程は、幼稚園教育要領の精神を踏まえ、園の教育理念・教育目標を基に編成する	3	5	0	
		○園の教育課程を理解し、それに基づいて保育の計画を立てる	2	4	2	
	4	○指導計画は幼児の発達に即して幼児期にふさわしい生活を展開できるように具体的に作成する	2	4	2	
		○指導計画は幼児の実態や周囲の状況の変化に対応できるような順応性のあるものにする	3	4	1	
	5	環境の構成	○安全で清潔感のある環境を構成する	4	3	1
			○幼児が主体的にかかわりたくなるような素材や遊具を考えて環境を構成する	2	6	0
			○幼児が自ら活動を展開していけるような場や空間の構成をする	1	6	1
			○遊びに必要な遊具や用具、素材などを質・数量に配慮して用意する	0	6	2
			○楽しい雰囲気の中かで安心して遊びこめる環境を構成する	4	4	0
			○幼児の活動がより豊かになるように、活動の展開に応じて環境を再構成する	4	3	1
			○幼児の発想を柔軟に取り入れて、保育室の装飾や展示をする	0	8	0
			○園地・園庭の樹木や草花の名前、季節による変化などを理解し、環境構成にいかす	0	5	3
			○幼児の発達や生活を見通した環境の構成をする	3	4	1
			○季節の変化に応じた環境の構成をする	3	5	0
	6	評価・反省	○自分の保育についての評価・反省をいくつかの観点から行う	1	6	1

		○自分の保育を評価・反省することで、次の保育にいかす	2	6	0	
II 保育の在り方、幼児への対応	1	健康と安全への配慮	○朝の登園時には特に視診を大切にし、子どもの体調が悪くないかを確認める	6	2	0
			○けがや事故に気をつけ、万一、事故やけがが発生した場合は、園長に報告し、保護者に連絡をとり、医師に見てもらうなど適切な処置を行う	5	3	0
			○園内に危険な個所がないか、危険な遊び方はしていないか常に配慮し、危険が予測される場合は安全な遊び方について幼児と一緒に考える	7	1	0
			○園内の清掃や整理整頓、換気、採光、室温などに気を配る	5	2	1
	2	幼児理解	○一人ひとりの幼児をよく観察すると同時に周囲にも目を配る	8	0	0
			○幼児の話をよく聞き、幼児の思いを受けとめる	6	2	0
			○個々の幼児の発達の姿や課題について、見通しをもって理解する	4	4	0
			○幼児同士のかかわりの姿を捉え、そこでの幼児の育ちを理解する	4	4	0
			○幼児たちが今、興味や関心をもっていることを知る	3	5	0
			○幼児の理解のために家庭との連携をとる	4	2	2
			○幼児の姿を多面的に捉えるように心がける	3	2	3
	3	指導とかかわり	○幼児の思いや考えに共感しながら、幼児と一緒に活動する	6	1	1
			○幼児が理解しやすいような、正しい言葉を使う	5	3	0
			○幼児の心を傷つけたり、人権を無視したりする言葉や態度、かかわり方をしない	8	0	0
			○善悪の判断、思いやりなどの道徳性を培ううえでのモデルとなるように心がける	6	2	0
			○幼児の一人ひとりのありのままの姿を受け入れ、その子のよさを認めるように心がける	8	0	0
			○幼児の話をよく聞いたり、スキンシップをとるようにする	5	3	0
			○幼児が遊びを深めていくための、適切な援助をするように心がける	3	4	1
			○幼児の年齢に応じた援助の仕方を工夫する	2	5	1
○幼児が自ら考えたり工夫したりできるように見守り、行き詰まっているときには適切な援助をする			3	4	1	
○幼児同士のトラブルに対し、適切な対応をするように心がける			4	3	1	
4	保育者同士の協力・連携	○クラスに関係なく、その場にいた保育者が適切な言葉がけや対応をするように心がける	8	0	0	

			○クラスの環境構成などについてもお互いにフランクに意見を交換し合う	5	3	0
			○幼児のことについて保育者同士で話し合い、共通理解をするように心がける	7	1	0
			○他のクラスや異年齢の幼児たちと触れ合うような、さまざまな工夫をする	2	6	0
Ⅲ 保育者としての資質と能力	1	専門家としての能力・姿勢・義務	○幼児の性格や個性を把握し、幼児の考えや感じていることを理解する	3	5	0
			○保護者に対し、幼児や自分の保育のことをわかりやすく話し、保護者との信頼関係を築くよう努める	2	6	0
			○保育時間外でも保育者としての誇りと自覚をもった言動を心がける	2	5	1
			○幼稚園には自分自身のプライベートな生活を持ち込まないようにする	4	2	2
			○幼児や保護者との対応には、公平さを欠かさないようにする	7	1	0
			○服装、髪形、身だしなみなど、清潔感のあるものを心がける	3	3	2
			○職務上、知り得たプライバシーに関する情報などの秘密を守る	9	0	0
			○園の重要書類は持ち出さない	7	1	0
			○締切りのある仕事や提出物は締切日をきちんと守る	3	4	1
	2	組織の一員としての在り方	○教職員全員で一つのチームであることを自覚する	7	1	0
			○他の意見を素直な気持ちで聞いたり、自分の意見を述べるよう努める	5	3	0
			○子どものこと、クラスの出来事などで必要なことは園長や主任に報告、連絡、相談をする	6	2	0
			○当番や役割による仕事は確実にを行う	4	4	0
			○園や保育者に関することについては、軽はずみに他に話さない	7	1	0
	3	保育の楽しみ・喜び	○幼児の成長を自分の喜びと感じる	8	0	0
○幼児と一緒に生活を創りだすことを楽しいと感じる			7	1	0	
Ⅳ 保護者への対応	1	情報の発信と受信	○保護者に個々の幼児の様子を伝える工夫をする	5	3	0
			○保護者からの相談や要望には心を開いて、よく話を聞くように心がける	4	3	1
	2	守秘義務の遵守	○保護者の住所、電話番号など個人情報の管理については園の方針に従う	8	0	0
			○個々の幼児や保護者、家族の情報は口外しない	8	0	0
	3	対応上のマナ	○日常生活において、その場にあった正しい言葉を使うようにする	3	5	0

	一・心がまえ	○電話は、相手が見えないために誤解が生じやすいことを心に留め、簡潔にわかりやすく話すことを心がける	2	4	2	
		○保護者からの依頼や伝言などについては、メモをするなどきちんと対応する	5	3	0	
	4	クレームへの対処の仕方	○保護者からクレームがあった場合は、まず謙虚にその話を聞き、園長に報告、連絡、相談をする	5	3	0
			○クレームの内容によっては教職員全体で検討し、共通理解のうえで対処する	4	3	1
V 地域の自然 や社会との かかわり	1	地域の自然・ 人々とのかかわり	○地域の人々と親しくあいさつや会話を交わすように心がける	4	4	0
			○地域の自然や主な施設の場所、交通機関、行事などについて理解するよう努める	0	2	6
			○地域の自然や機関についてマップを作成するなど、利用しやすい工夫をする	0	1	7
	2	小学校との連携	○小学校の教育内容について理解するよう努める	0	2	6
			○地域の小学校の行事や公開授業に関心をもつ	0	2	6
	3	子育ての支援と 地域への開放	○子育ての支援や地域開放について具体的な形や内容を理解する	0	3	5
○子育ての支援や地域開放について、教職員全体で話し合う			0	5	3	
VI 研修と研究	1	研修・研究への 意欲・態度	○研修会や研究会には自己課題をもって進んで参加する	1	3	4
			○自分の保育について自己課題をもって評価・反省を行う	2	5	1
			○自分の保育の在り方や悩みについて、他の保育者や主任、園長に相談する	2	5	1
	2	保育者としての 専門性に関する 研修・研究	○幼児の発達理論を学び、保育にいかすための研修・研究を行う	1	6	1
			○記録の取り方、考察の仕方に関する研修・研究を行う	1	4	3
			○教育課程や指導計画の理解と作成に関する研修・研究を行う	1	3	4
			○保育記録に基づいた評価方法と計画に関する研修・研究を行う	2	3	3
			○幼児の発達を見通した環境構成や教材に関する研修・研究を行う	3	4	1
			○保護者への対応に関する研修・研究を行う	0	4	4
			○地域社会との交流に関する研修・研究を行う	0	2	6
3	今日的課題に関 する研修・研究	○アレルギー、自立の遅れなど、最近多く見られる問題について理解する	2	5	1	
		○障がいのある幼児の理解と対応について研修する	2	6	0	

		○預かり保育や子育ての支援について研修する	1	3	4
		○幼小連携の必要性や具体的方策について研修する	0	2	6
		○危機管理の必要性と対応について研修する		4	1

表の中にある数字は実数です。

2022年度 評価のまとめ

2023. 3. 30

今年度も、新型コロナウイルス感染防止のため、様々な行事や保育に関する取り組みが制限されることとなっていました。そんな見通しが定かでない中においても、先生方の真摯な取り組みと工夫が見られたことは、今までにない成果であると思います。先生方の評価の中から抜粋して掲載いたしました。

I 「保育の計画性」についての評価結果及び改善策

- ・具体的に保育計画を立てる際に、子どもの姿をしっかりと見つめていくことから、はじめていきたいと感じた。指導要領に示されている「育てほしい10の姿」より、特に、心について、非認知能力の育ちについて、具体的に計画していく必要を感じた。

- ・教育理念など話し合うことがほとんどなかったように思う。教育目標を話し合い、保育計画を立てることは、行事担当になっている先生たちとはできていたかと思う。

- ・昨年度より、冬季休業期間に先生方で話し合い、教育課程を作成できたことにより、保育内容について見直しをすることができた。また、園全体の活動に関しては、はっぴーでいなども充実した内容になったと感じる。

- ・子どもたちが興味を持ちやすいように関わり、子どもたちが自発的に知りたいと思えるような関わりを心掛けた。

- ・保育の中に季節を取り入れたり、子どもが考えたことを取り入れたりできるように心掛けた。保育者同士で話し合いはよくしているが、教育要領を読むということはできなかった。

- ・前年度よりも保育者間の話し合いの機会が増えた。「遊び」「行事」に担当を分けての話し合いで、細かく計画していた。

- ・お買い物ごっこに力を入れて取り組んできたが、行事に追われ、なかよしの時間をとることができなかった。

- ・参観日ができなかったときに、無理に入れてしまった。今後はどうするかを話し合いたい。

◇改善策

- ・保育計画を具体的にわかりやすく組み立てていく。そのためには、保育者間での保育内容についての話し合いの時間を増やし、教育課程の充実や共通理解をもてるようにする。

II 「保育の在り方、幼児への対応」についての評価結果及び改善策

◇改善策

- ・個々の保育という観点と、「チーム」でのものを有機的に結び付けていく。園での保育活動の系統性を考え活動を行う。そのための具体的なシラバスを考えていく。

III 「保育者としての資質と能力」についての評価結果及び改善策

◇改善策

- ・個人の資質の向上の内容に、保育者集団としての取り組みを反映させたい。めぐみ幼稚園としての研究・研修の課題を設定して年間を通して取り組みをすることも検討したい。

IV 「保護者への対応」についての評価結果及び改善策

◇改善策

- ・クラス日より、めぐみの子の内容の充実と共に、個人個人に対する連絡の仕方により工夫をしていく。

V 「地域の自然や社会とのかかわり」についての評価結果及び改善策

・

◇改善策

- ・コロナ「後」の取り組みを考えて、今から出来ることを明らかにしておく。

VI 「研修と研究」についての評価結果及び改善策

◇改善策

- ・リモートの研修であっても、出来るだけ多く役に立つものは受けることが出来るように、園の体制を整えていく。園内研修も充実させていく。(ミニ研修等、手軽にできることでの交流を進める。)

*全体を通して

- ・保育に関しては、プラスの要素が増えてきた。これは、個々の保育者の意識の変化があったからだと思う。また、より良い保育を行いたい、との思いを各自が強く持ち続けていたことが大きい。
- ・半面、地域の自然や社会との関りや、研修と研究の項目には、昨年より、低評価が多く、本年度はさらに増加した。職場の多忙化や、なかなか職員が一堂に集い会議を持つことがままならないといった物理的な要因が、研修を深めることや、新たな取り組みを進めることを阻害している。次年度は、個々の改善が求められている。
また、「小学校との連携」などにも、すぐに行えること（学校への卒園児の様子を見るための訪問、普段の授業や行事の研修、また、小学の先生方の園への受け入れと相互研修、等）を取り入れることから、新たな発想を持てる機会としたい。

2021年度 関係者評価委員会

2021年度深川めぐみ幼稚園 評価

2022年3月30日